【個別計画編①】

【個別計画編①】

５章　幸地グスク周辺保存活用区域推進計画

１．保存活用計画の方向性

（1）テーマ

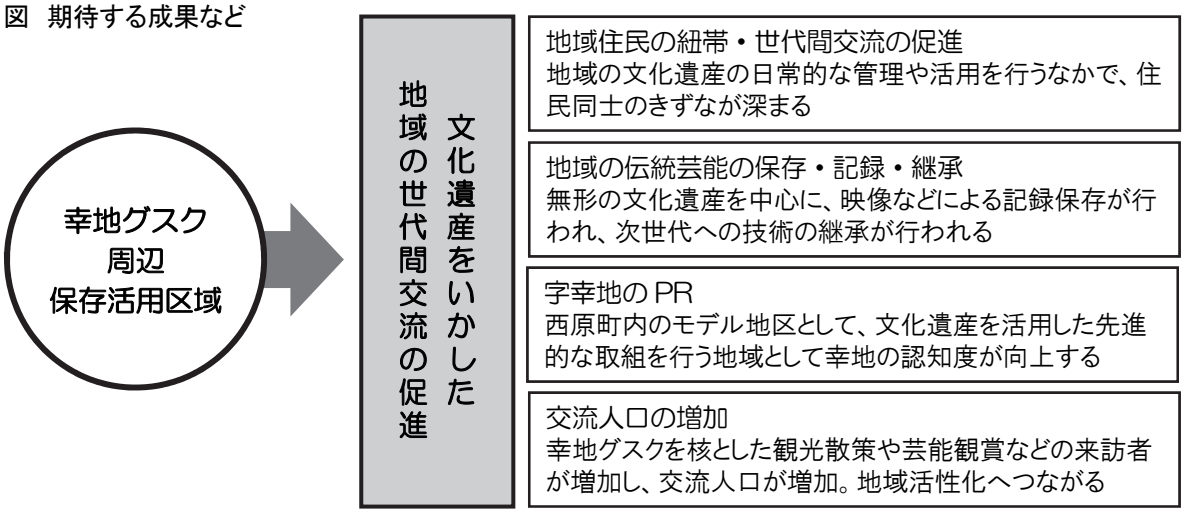
文化遺産をいかした地域の世代間交流の促進

幸地グスク周辺保存活用区域においては、下記のような字幸地の特色をいかし、有形の文化遺産の調査や整備の促進、無形の文化遺産の保存継承を促進する。特に核となる幸地グスクの活用や眺望景観の確保、綱引きや十五夜遊びなどのまつり・芸能の保存継承および PR と、まつりや芸能の場の保存を行う。

また、字幸地では現在、子ども会や青年会の復活に向けて取組を行っているところである。拝み行事や綱引き、獅子舞などの芸能は、これらの活動をとおして世代間交流を促進する可能性を秘めており、文化遺産の保存・活用を通じて地域活性化につながる取組を促進する。よって、幸地グスク周辺保存活用区域におけるテーマを「文化遺産をいかした地域の世代間交流の促進」とする。

【字幸地の特色】
字幸地には幸地グスクという核となる文化遺産が所在し、番所跡や、首里城と中城城跡を結ぶ歴史の道が残っていることから、重要な地域であったと考えられます。
また、字幸地は芸能も盛んな地域であり、十五夜遊びでは獅子舞や長者の大主、雑踊など様々な芸能が行われています。

図　期待する成果など



（2）取組の展開の考え方

幸地グスク周辺保存活用区域においては、文化遺産の保存・活用を進めるために、主に下記のような取組を行う。なお、並びは実施する順番を示したものではなく、取組の進捗や地域の盛り上がりにあわせて、適宜推進していくものとする。

知る・体験する

字誌編纂など字主体の取組の継続・新規実施
字幸地で進められている字誌編纂に向けた取組や、字誌に関連して実施することが期待される取組を促進することで、幸地の歴史文化を次世代に引き継ぐきっかけをつくる。
⇨関連する取組：４（1）（2）／５（2）（3）／６（2）など

守る・高める　／　いかす・伝える

文化遺産を守りいかしていく体制の構築
字幸地の文化遺産を次世代に継承し、活用していくための体制づくりや、地域住民と文化遺産とのつながりをつくるための取組を行う。【ひとづくり】
⇨関連する取組：４（2）（3）／５（3）（4）／６（2）／7など

活用の促進
イベントの実施や地域散策、子どもたちの夏休みの自由研究など、字幸地の文化遺産を活用した取組を行う。【ひとづくり･まちづくり】
⇨関連する取組：４（2）／６（1）（4）など

幸地グスク周辺の景観形成重点地区への指定検討
幸地グスク周辺の景観や眺望を維持するため、景観条例で位置づけられる「景観形成重点地区」への指定に向けた検討を行う。【まちづくり】
⇨関連する取組：５（5）など

字内文化遺産の調査研究、整備の促進
幸地グスクや歴史の道など、字内に所在する文化遺産について、調査研究を促進する。また、整備が必要なものについて整備･修復、サイン設置などを行う。【まちづくり】
⇨関連する取組：５（1）（2）（5）など

字幸地における文化遺産の情報発信
字誌編纂やイベント実施による情報発信のほか、YouTube などを活用した情報発信を行う。
⇨関連する取組：４（1）／６（3）（4）など

文化遺産をいかした地域の世代間交流の促進

２．文化遺産および対象地域の概要

（１）区域の概要

①ストーリー

幸地は、町内でも古い集落のひとつで、かつては「城村」、「熱田村」、「東風平村」に分かれていました。城村はグスクの北東側に、熱田村は小字安津田に、東風平村は東風平原にあったと伝わっています。幸地という地名は、17 世紀中頃に作成された『琉球国高究帳』に「廣地村・おなか村」と併記で登場するのが最初です。『琉球国由来記』には、現在と同じく「幸地村」と記載され、「は　かうち原」と刻字された印部土手石も残されています。

西原町は、かつては西原間切として首里王府の直轄地であったため、間切を代表するいわゆる同村（ドゥームラ）というものがありませんが、西原間切の地頭家が幸地親雲上と呼ばれたことから、幸地が西原間切の拠点地域だったのではないかと考えられます。

集落内には幸地グスクという核となる文化遺産が所在し、グスク内には、首里城と中城城址を結ぶ歴史の道が通っているほか、グスク南側には古番所跡と呼ばれるところがあります。また、集落の南西にある刻時森は、蔡温が古波津里恒らに命じて、日影と漏刻との関係を観測させたところで、古くより首里王府とのつながりが感じられる地域であるといえます。

●グスクにまつわる伝説

むかし、西原の幸地城の主である熱田子は、戦略武勇の達人で誰もが恐れていました。熱田子は、隣の津記武多按司と親しくしていましたが、按司の奥方の美貌にほれていました。

ある日、熱田子は、魚釣りの帰りに、その奥方が亭良佐井で髪を洗うのを見て、尻をなでていたずらをすると、奥方は怒って、そのことを夫である按司に告げます。按司は非常に立腹し、熱田子を殺害しようとしましたが、相手の力は侮り難く、攻め入る機会をうかがっていました。そのことを耳にした熱田子は、謀士を招き入れ協議し、早めに津記武多按司を滅ぼすことを決めます。さっそく熱田子は、按司は酒宴を設けて観持し、宴もたけなわのころ、熱田子が按司に「按司は宝剣をお持ちのこととうかがっております。是非、拝見させて下さい」と申し出て、宝剣を手にするや、その剣で按司を斬り殺し、家臣らも皆殺しにします。しかし、その奥方は殺さず自分のものにしようとしましたが、奥方は、井戸に身を投げ、自殺します。

そのことを聞いた今帰仁按司は非常に怒り、自ら討伐軍を率いて幸地城に急攻しました。幸地城の兵は少なかったので、熱田子は一計を案じて自ら城を出て今帰仁の大軍を入城させ、大いに酒席を設けてその遠征の労をねぎらいます。有頂天になった今帰仁軍は大酔します。熱田子は、事前に兵を翁長村の北山に潜伏させていたので、大酔した今帰仁軍は、難なく討ち殺されました。今帰仁按司もそこで殺害されたので、ここを「今帰仁山」と呼ぶようになったといいます。

今帰仁按司の家臣に4人の大将がいて、4人は按司の仇討を誓い、大軍を率いて幸地城の熱田子を攻め、ついに討ち亡ぼしました。熱田子の墓は、石嶺御嶽の東にあって、その子孫らは翁長村に住み、その墓を守っていると伝わっています。（『球陽　外巻　遺老説伝』）

●祭祀と芸能

幸地の聖地として『琉球国由来記』に、ヒガワノ嶽、石嶺ノ嶽、城之火神、名幸之殿、幸地城之殿、幸地巫火神の記載があります。なかでもヒガワノ嶽は、正月元旦に王に献上する水を汲む吉方の井戸のひとつと位置づけられていました。

年中行事としては、ニーセージナやウファチジナといった綱引きや、村遊びなどが行われています。村遊びは子年と酉年は特に盛大に行われ、獅子舞や組踊などが演じられます。

上記のことから、幸地グスクを中心として、伝説や様々な文化遺産がみられる幸地の地域を、ひとつの保存活用区域と捉えます。

②主な文化遺産

幸地グスク周辺保存活用区域の主な文化遺産は、下表のとおりである。

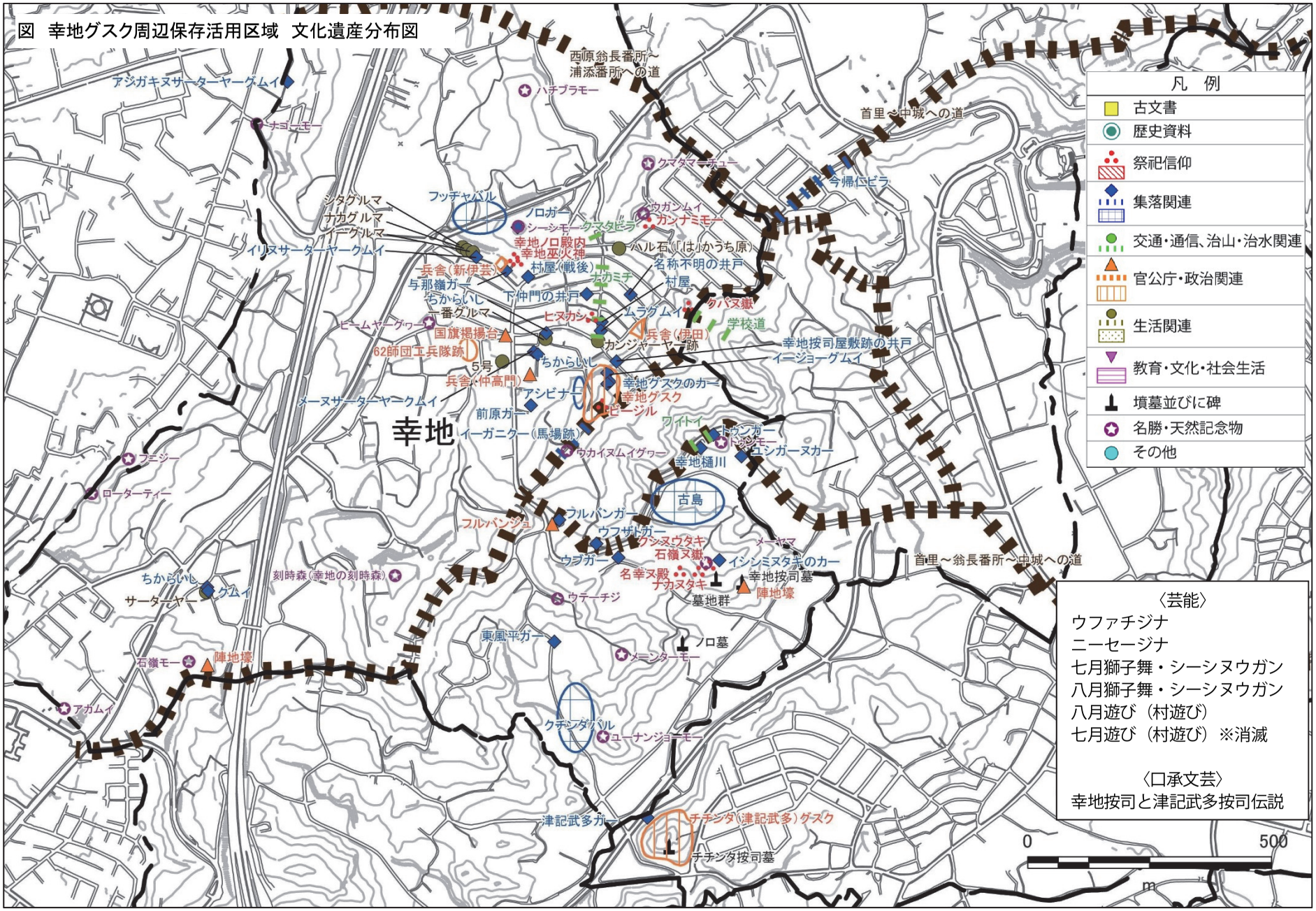
表　主な文化遺産

名称	概要
幸地グスク （幸地 102）	【分類】：官公庁・政治関連 • 西原町の西部に位置し、標高約100mの丘陵上に所在する。 • 『琉球国由来記』には「幸地城之殿」が祭祀場と記されている。 • 城主・熱田子の伝承が伝わる（『球陽　外巻　遺老説伝』）。 • 『西原町史　第3巻　西原の民俗』では、幸地グスクについて、15世紀前半につくられ、その後数十年間グスクとして、あるいは関所として、また戦乱期の後には領地内支配の拠点的な機能も複合的に期待された形で存在した可能性があるとしている。 • グスク内にはビージルと呼ばれる霊石が祀られている。グスク斜面に位置する平坦地に遊び庭がある。グスク内を通る道は、馬場として利用された。
幸地按司墓 （幸地 69）	【分類】：墳墓並びに碑 • 幸地グスクの城主・熱田子の墓といわれている。 • 丘の頂上部を形成している琉球石灰岩の岩陰を巧みに利用して造営されたもので、岩陰の開口部は石積みによって閉じられている。
フルバンガー （幸地 37）	【分類】：集落関係 • 古番所井とも。この場所に西原番所があったといわれている。
刻時森（くくじむい） （幸地 19）	【分類】：教育・文化・社会生活 • 幸地集落南西にある標高142.7mの小高い丘。 • 蔡温がこれまでの漏刻の法が不正確なので改正しようとして、古波津里恒らに命じて、日影と漏刻との関係を観測させたところである。
幸地樋川 （幸地 30）	【分類】：集落関係 • 首里城では、元日の朝、吉方の井泉から汲んだ水を、辺戸の水とともにウチュクイノ阿武志良礼が王に献上した。『琉球国由来記』によれば、吉方の水は主に首里近郊に散在する9か所の井泉から汲んだもので、西原町では、首里城から寅の方位（東北東）にあたる幸地樋川が選ばれたという。
綱引き （各地）	【分類】：芸能

名称	概要
	• ウファチジナ（御初綱）とニーセージナ（二才綱）の2種類があり、ニーセージナは現在でもカドゥで行われている。 • 綱は雄雌違う場所でつくっていたが、現在はどちらも児童公園でつくる。かつてはウシリーと呼ばれる役割があり、子どもたちが各戸から綱を編むための茅などを集めていたという。
村遊び （各地）	【分類】：芸能 • 稲の収穫を終えた旧暦8月15日に、村の神々に五穀豊穣を感謝し、豊年を祈願するためにアシビナー（遊び庭）などで演じられる奉納舞踊である。 • 幸地では獅子のウトゥイムチといい、獅子をもてなすため、「長者の大主」や雑踊、獅子舞など、様々な芸能が演じられる。 • 特に村遊びについては、幸地において芸能が盛んになった由来・いい伝えが残されているほか、幸地独自の踊り「踊り天川」が継承されている。 • 『西原町史第3巻　西原の民俗』では、幸地の芸能の由来として、次の伝承を収録している。「三百年程前、幸地の村が大変豊かになりすぎて、誰も他人の使用人になる者が無く、困った状態になった。そこで、富を浪費させるために三年間仕事をする事を禁止し、村遊びばかりをさせた。そのために、村遊びが大変上手になり、読谷村の楚辺あたりまで興行をして巡ったという」
ハル石 （各地）	【分類】：生活関連 • 高さ66センチメートル×幅30センチメートル×厚さ6センチメートルの砂岩製のハル石。 • 個人の私有地で発見されたが、もともとは畑と道路との境界付近の土手の上に立っていたという。 • 「は　かうち原」と刻字されている。
熱田子（あったしー）の伝説	【分類】：口承文芸 • 熱田子は、隣の津記武多按司といさかいを起こし、その一族を滅ぼした。さらに討伐軍を率いた今帰仁按司も討ち取ったため、その後、今帰仁按司の4人の息子に滅ぼされた。

※名称後ろの数字は、文化遺産 ID である。

図　幸地グスク周辺保存活用区域　文化遺産分布図



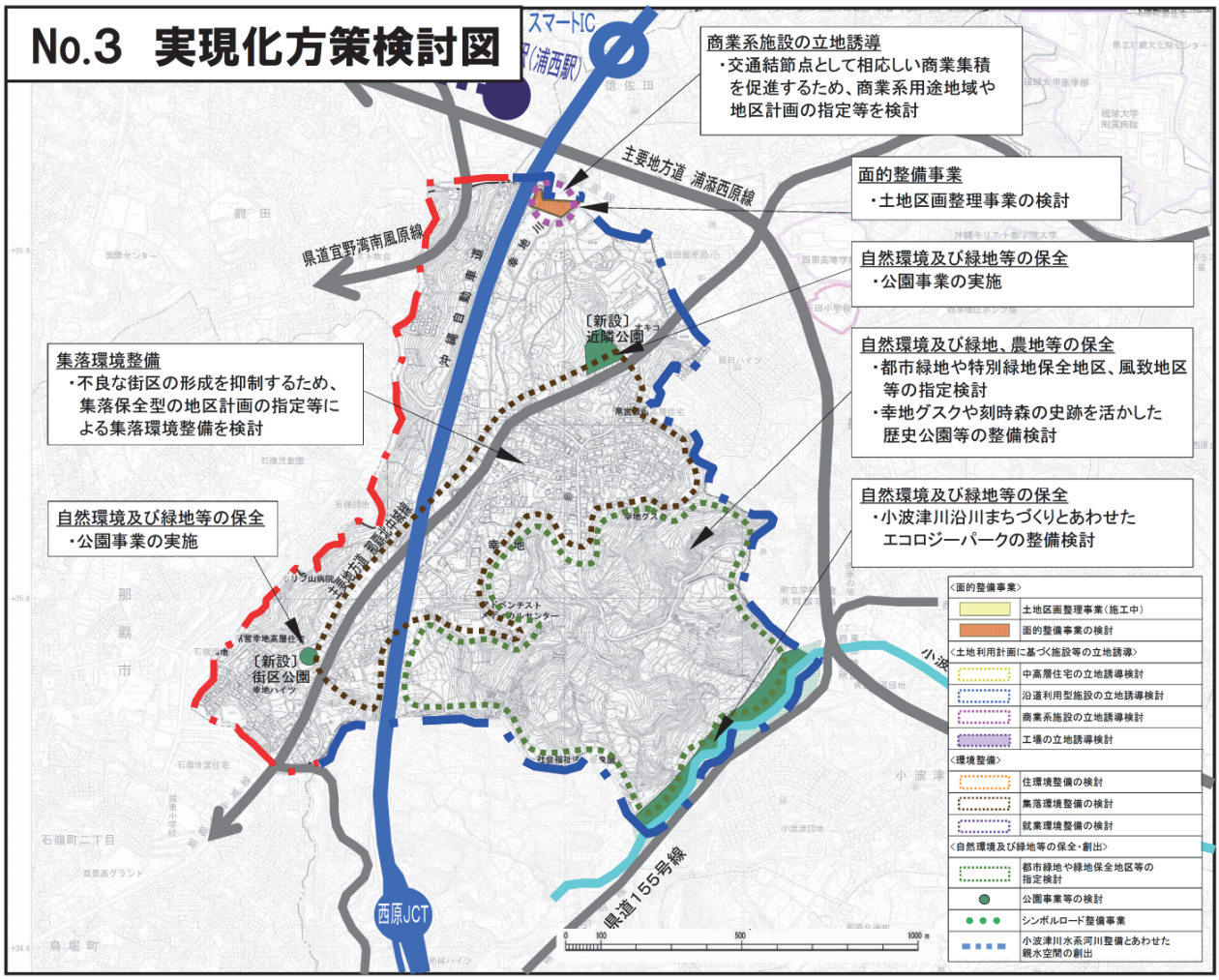
（2）関連計画での位置づけ

①西原町都市計画マスタープラン

「西原町都市計画マスタープラン」において、幸地地区は、幸地グスクをはじめとした史跡や地区南部に広がる刻時森など貴重な自然・歴史資源を残していることから、「豊かな緑と歴史を活かしたやすらぎのあるまち」を将来像に掲げ、良好な住環境の維持・向上を目指すことが位置づけられている。

また、区域の方針として、幸地グスクや刻時森などは貴重な歴史・文化・景観資源として保全するとともに、案内板の充実などにより活用を図ることなどを定めている。そのほか、幸地グスクや刻時森の史跡をいかした歴史公園などの整備を検討することを位置づけている。

図　幸地グスク周辺地区の実現化方策検討図



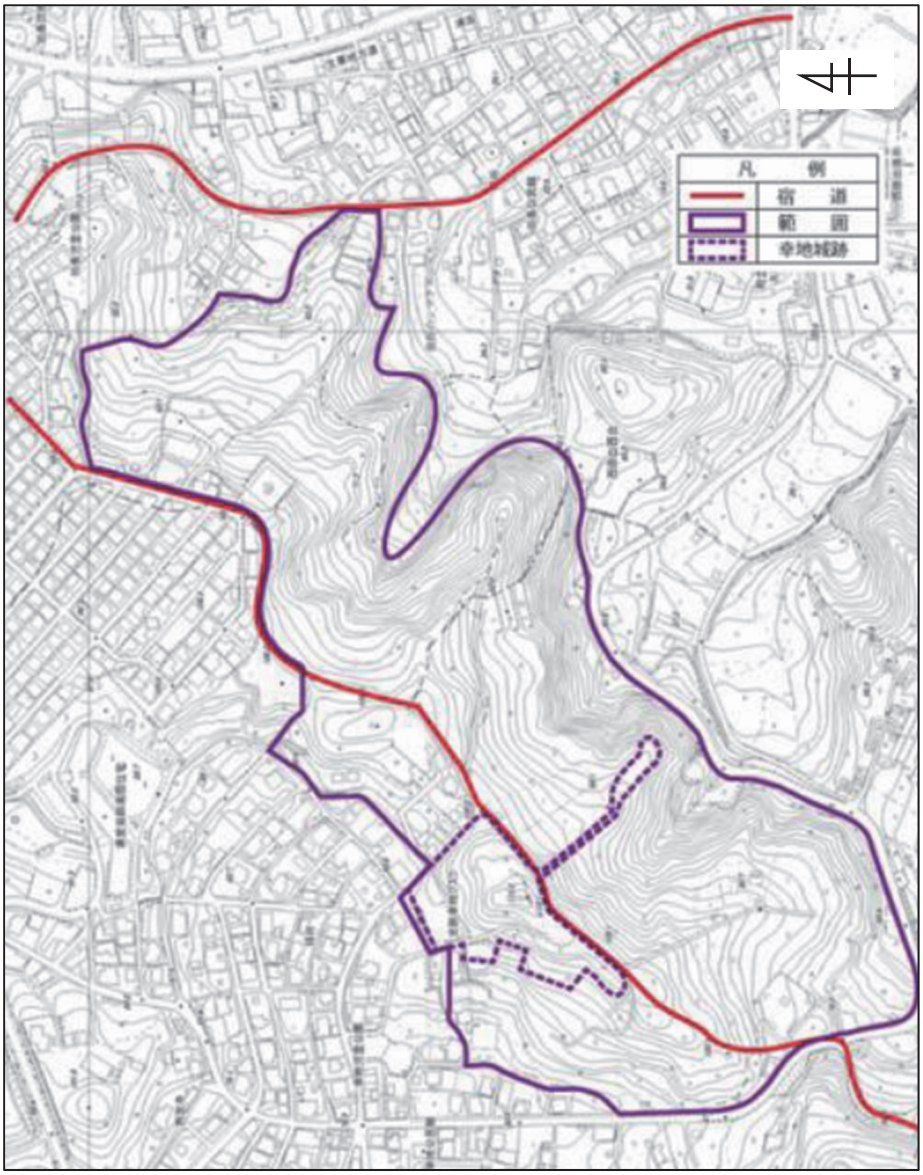
②西原町景観計画

西原町では、平成 28 年 9 月から「西原町景観まちづくり条例」を施行し、町の景観について、より優れた景観を保全する必要があると認められた地区やより良好な景観を創造していく地区を「景観形成重点地区」として指定できることを定めている。

幸地グスクを中心とする地区は、「西原町景観計画」において、景観形成重点候補地区に位置づけられている。候補地区の範囲は幸地グスクを含む斜面緑地帯であり、住宅地は含まれない。

なお、景観計画のエリア別の方針では、「集落農地緑地地区」となっており、「歴史の道」の再生や広場などの整備と連携し、歴史文化を感じられる景観の誘導やグスクなどが存在する緑地の無秩序な開発からの保全が位置づけられている。

図　幸地グスク周辺地区（景観形成重点候補地区）のエリア案



３．対象となる文化遺産および地域の課題

①文化遺産の整備・補修の必要性

字幸地においては、集落行事として綱引きや十五夜遊びをはじめとした拝み行事が行われており、この対象となっている拝所や、綱引きの綱を編む場や綱引きの場、獅子舞の頭などを保管する場などは、現在も幸地住民にとって大切な文化遺産として継承されている。

しかし、拝み行事の対象ではない文化遺産などいくつかの文化遺産については、アクセスに難があったり、文化遺産そのものの整備が必要であったり、文化遺産であることを示すサインが必要な状況である。特に対応が必要と考えられる文化遺産を下記に整理する。

表　特に対応が必要と考えられる文化遺産

文化遺産	状況
幸地グスク	• グスクの広場は草刈などの管理が（行政によって）行われており、解説板や標柱も設置されている。 • グスクからの眺望はよいが、グスクにまつわる伝承に登場する津記武多グスクへの眺望を確保することが望ましい。 • 車が通る道はあるが、安全性や徒歩でのアクセスに難がある。
歴史の道	• 歴史の道は幸地グスク内を通っており、グスク内に解説板が設置されている。 • 歴史の道自体は整備されておらず、たどることは難しい。 • グスク反対側からは、通行できない状態である。
幸地按司墓	• アクセスに難がある。
フルバンガー（古番所跡）	• 番所跡といわれるが、それをしのばせるものはない。 • 標柱などのサインはない。
刻時森	• 草刈などの管理は行われているが、入り口は分かりづらい。 • 病院側のタンク側にあり、表の道からは分かりにくいため、存在を知っている人しか訪れない。

②文化遺産の保存継承の担い手の高齢化

字幸地は歴史文化的な取組について関心の高い地域であり、綱引きや各種拝み行事を現在でも継承しているほか、獅子舞保存会などの組織も存在する。しかし、中心となる担い手は高齢化が進んでおり、若手と呼ばれる世代でも 40～50 歳代を迎えていることから、その継承について地域の人々自身が懸念を抱いている状況である。若い世代の巻き込みが大きな課題となっている。

③子ども・女性への地域文化の継承

字幸地では現在、女性や子どもについては地域行事への参加が少なく、ニーセージナなど子どもが主役の地域行事においても、参加者の確保が難しい状況である。参加が少ない背景には、子ども、両親ともに部活動や学校行事で忙しく地域行事へ参加する余裕がないことや、字外から嫁いできた女性は地域の歴史文化を知る機会が少ないことなどが考えられる。次の世代を担う子どもたちへの、字幸地の歴史文化の継承が大きな課題である。

４．文化遺産を「知る・体験する」ための取組

（１）字誌の編纂など字主体の取組の継続

【取組の概要】

- 既に幸地では、幸地字誌編纂に向けて、写真の情報の収集や文化講演会などを行っており、このような取組を継続する。

【期待する効果・留意点など】

- 字誌の編纂は、地域住民が幸地の歴史文化を見つめなおす機会となり、また若い世代や転入してきた新住民にとっては、新たに幸地の文化遺産について知る絶好の機会となる。

（２）子ども・女性向けの歴史文化継承ワークショップの開催

①行事料理ワークショップ（例）

【取組の概要】

- 字内の子どもや女性を対象に、重箱料理や幸地で行われている年中行事に登場する料理などを体験するワークショップを開催する。

【期待する効果・留意点など】

- 料理体験など比較的取り組みやすいと思われる題材の体験を行うことで、幸地の歴史文化に興味を持つ入り口とする。
- 講師は字内の女性（後述する「幸地の達人」など）がつとめ、世代間交流のきっかけとする。

②幸地文化遺産巡り（例）

【取組の概要】

- 字住民を対象とした文化遺産巡りを行う。地域住民（後述する「幸地の達人」など）がガイド役となって地域の文化遺産を巡る。

【期待する効果・留意点など】

- 字の子どもたちや、転入してきた嫁や新住民などが、字内に所在する文化遺産について知る・触れる機会とする。

③夏休み自由研究「獅子舞体験」（例）

【取組の概要】

- 字内の子どもたちを対象に、獅子舞の頭を持ってみたり動きを体験したりする体験学習を行

う。あわせて獅子舞の由来や、年中行事などについてもレクチャーを行う。

【期待する効果・留意点など】

- 小中学生の夏休みの自由研究対策として実施することで、参加のハードルを下げ、幸地の文化遺産に触れる入り口とする。
- 子どもたちへ分かりやすくレクチャーすることで、講師となる獅子舞保存会側にとっても、理解の深化やレベルアップにつながることを期待する。

④夏休み自由研究「地域のいい伝え集め」（例）

【取組の概要】

- 子どもたちを対象に、地域の古老から幸地按司のいい伝えや、民話などをヒアリングする体験学習を行う。

【期待する効果・留意点など】

- 小中学生の夏休みの自由研究対策として実施することで、参加のハードルを下げ、幸地の文化遺産に触れる入り口とする。

（3）「和衷協力」運動（仮）の取組

【取組の概要】

- 地域行事への参加を増やすため、各家庭で一家そろって行事に参加するよう呼びかける運動を行う。

【期待する効果・留意点など】

- 字幸地のまちづくりのテーマである「和衷協力（心をあわせて協力すること）」の精神にもとづき、地域行事への参加を促す地域運動を行うことで、地域住民の意識共有や紐帯を深める。

5．文化遺産を「守る・高める」ための取組

（1）幸地グスクの調査研究の推進

【取組の概要】

- 幸地グスクはいわゆる土からなるグスクだったとされ、城壁の石積みなどは存在しないといわれている。地域からは往時の姿をしのばせる整備に対する要望があり、どのような整備が適切なのかを検討するため、幸地グスクの調査研究を推進する。

【期待する効果・留意点など】

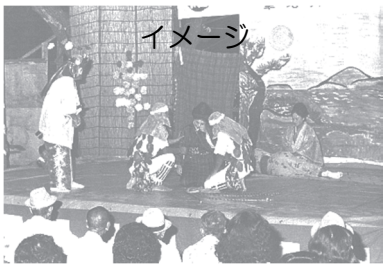
- 発掘調査は遺跡の破壊にもつながることから、専門家の意見を仰ぎながら慎重に進めていく。

（2）年中行事および芸能の記録保存

【取組の概要】

- 字幸地は、かつては近隣の集落から「遊び国」といわれるほど村遊びの盛んな地域だったが、現在では昔ほど盛んではない。しかし、現在でもニーセージナやウファチジナ、村遊びといった芸能・年中行事が行われており、これら行事の映像による記録保存を行う。

【期待する効果・留意点など】



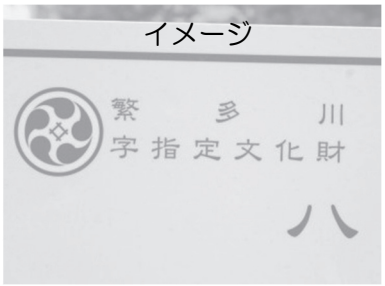
- 継承が課題となっている芸能などが映像によって記録されることで、次世代へ幸地の文化遺産を引き継ぐ材料となる。また撮影された映像記録は、後述する字幸地の文化遺産の情報発信に活用する素材ともなる。
- 子年と酉年の十五夜遊びは盛大に行われており、平成29年は「酉年まーるあしび」に当たることから、準備段階から映像記録も含めて記録保存を行う。
- 幸地独特の舞踊といわれる「柳天川」や、空手の型を基礎にしたという獅子舞の7つの型など、技術の継承が重要と思われる芸能について、優先して記録保存を行う。
- 現在使用されている獅子の頭などの行事に関する道具類は、これらの作成技術などもあわせて調査記録を進めていく。

表　特に記録保存が必要な行事・芸能など

行事・芸能名	概要
ニーセージナ	綱つくりの様子から、綱寄せ、当日綱引きが行われる場所および様子を記録する。

行事･芸能名	概要
ウファチジナ	綱つくりの様子から、綱寄せ、当日綱引きが行われる場所およびガーエーや綱引きの様子について記録する。
獅子舞	旧暦7月 15 日および8月 15 日の年2回、獅子毛で行われる。空手の型を基礎にした7つの型が存在するといわれ、それぞれの型を記録する。
村遊び（十五夜遊び）	地域住民の交流の機会となっており、様々な芸能が行われる。準備段階から実施まで一連の流れを記録する。
柳天川	幸地にのみ伝わるとされる独特の女踊り。
長者の大主、狂言など	他の地域との形式の比較を行うためにも、狂言や長者の大主などの演目を記録する。
酉年まーるあしび	12 年に一度、大々的に芸能が行われる。準備段階から実施まで一連の流れを記録する。

（3）「字指定文化遺産」の指定



イメージ

【取組の概要】

- 字幸地の年中行事に欠かせない拝所や芸能、そのほか大切に思われている文化遺産を「字幸地の指定文化遺産」として字が指定する。

【期待する効果・留意点など】

- 字の指定文化遺産とすることで、文化遺産への愛着や関心を高める。字誌の編纂とあわせて、選定を行うことが考えられる。
- 指定後は、字主体で、指定文化遺産と分かるよう標柱などのサイン整備を行うことが望ましい。サインの設置にあたっては、地域の子どもたちによる手づくりのサインとするなど、若い世代が地域の歴史文化に興味を持つきっかけとなるようにすることも可能である。

（4）子どもたちと文化遺産のつながりの復活

イメージ

【取組の概要】

- かつて字幸地の綱引きでは、地域の中学生が各戸を回って綱引きの材料となる茅などを集める「ウシリー」と呼ばれる役割があった。この制度が廃止されたため、子どもたちと地域行事のつながりが薄れてしまったとする意見がある。このウシリー制度のように、子どもたちが地域行事と関わる役割を復活させる。

【期待する効果・留意点など】

- 現状の参加状況では、かつての制度をそのまま復活させることは難しいと考えられるため、字内の子どもたちと地域行事の接点を創出するという視点から、可能な方法を検討する必要がある。

（5）幸地グスクおよび歴史の道の整備

①幸地グスクおよび周辺環境の整備

【整備・修復のポイント】

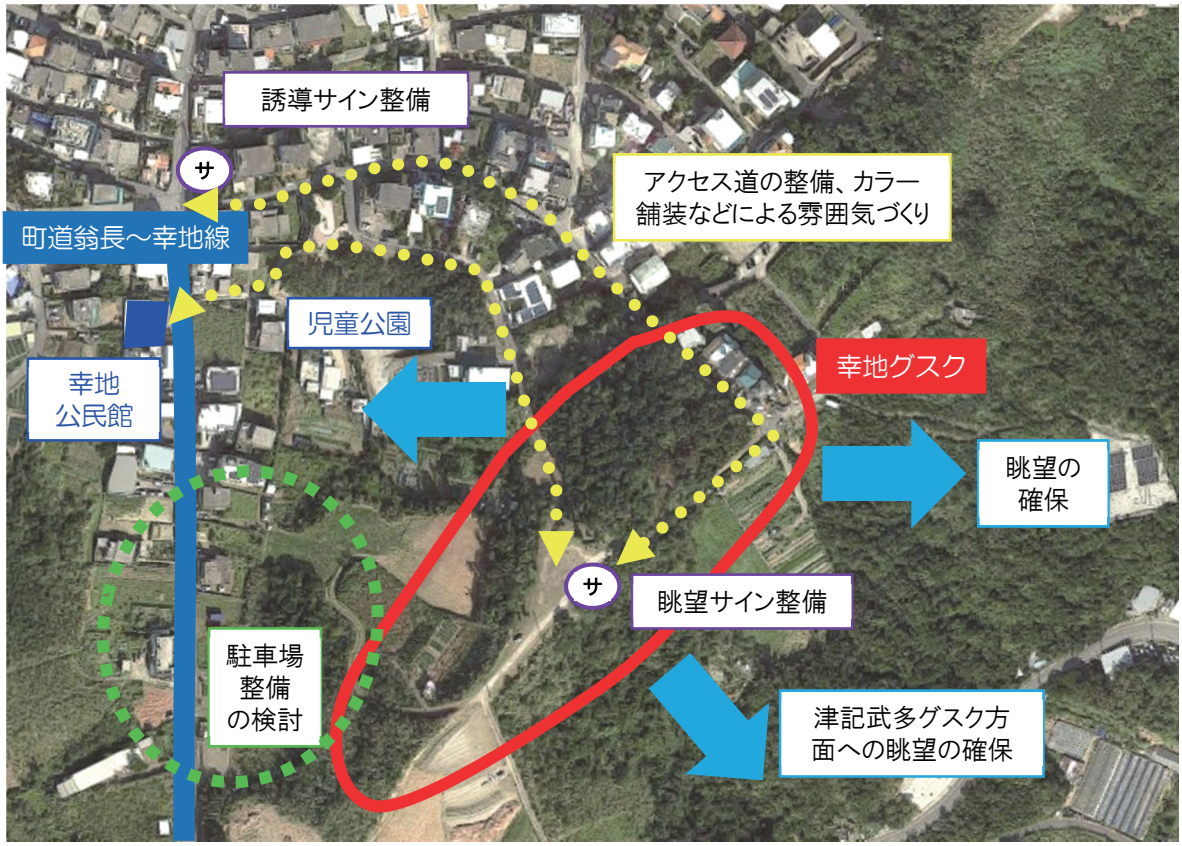
- 幸地グスクの整備後の姿については、調査研究の進捗に合わせて検討を進めていく。
- グスクからの眺望は素晴らしいが、雑木により一部阻害されており、眺望の確保が必要である。
- 車によるグスクへのアクセス道は１か所だが、狭く険しい。県道からの入り口も分かりづらい。

広場は草刈りなどの手入れがされている

【改善ポイント】

- グスクからの眺望景観を確保する。特に幸地グスクの城主・熱田子と争ったという伝承の残る津記武多按司の居城・津記武多グスク方面への眺望を確保する。
- グスクへ至る道の入り口に誘導サインなどを設置する。
- アクセス道（特にグスクへの登山道）は徒歩でも安全にアクセスできるよう、適切な整備を行う。また、集落内の道については、舗装を工夫することにより、グスクへ至る道としての雰囲気づくりを行う。
- 字外からの来訪者などがグスクを核とした集落散策を行うためには、駐車場の整備が必要であり、場所については地域住民と十分協議の上、決定する。

図　幸地グスク周辺整備構想図



■サイン整備イメージ

- 町道翁長～幸地線からの入り口には、誘導サインを設置する。
- 来訪者が、より熱田子の伝承を体感することができるよう、津記武多グスクの位置などを示した眺望の解説板整備について検討する。

誘導サインイメージ

眺望の解説板イメージ

■グスクへ至る道整備イメージ

- 町道翁長～幸地線からグスクへ至る道については、カラー舗装や石畳調の舗装など、舗装を変えてグスクへ至る道と分かるような雰囲気づくりを行う。

舗装を変えて雰囲気づくりを行う例

■土のグスクの整備イメージ

- 土のグスクの整備にあたっては、堀切などの地形が分かるような芝生ばりや、調査によって発見された構造物などの再現を行う。
- 整備のあり方や整備後のイメージについては、地域住民とも十分に意見交換を行いながら進めていくものとする。

中世城郭の整備の例
（山中城公園 http://www.mishima-kankou.com/msg/midokoro/10000020.html）

土のピラミッドの整備の例（グアテマラ・カミナルフユ）
（https://archive.bookofmormoncentral.org）

②歴史の道に関する整備

【整備・修復のポイント】

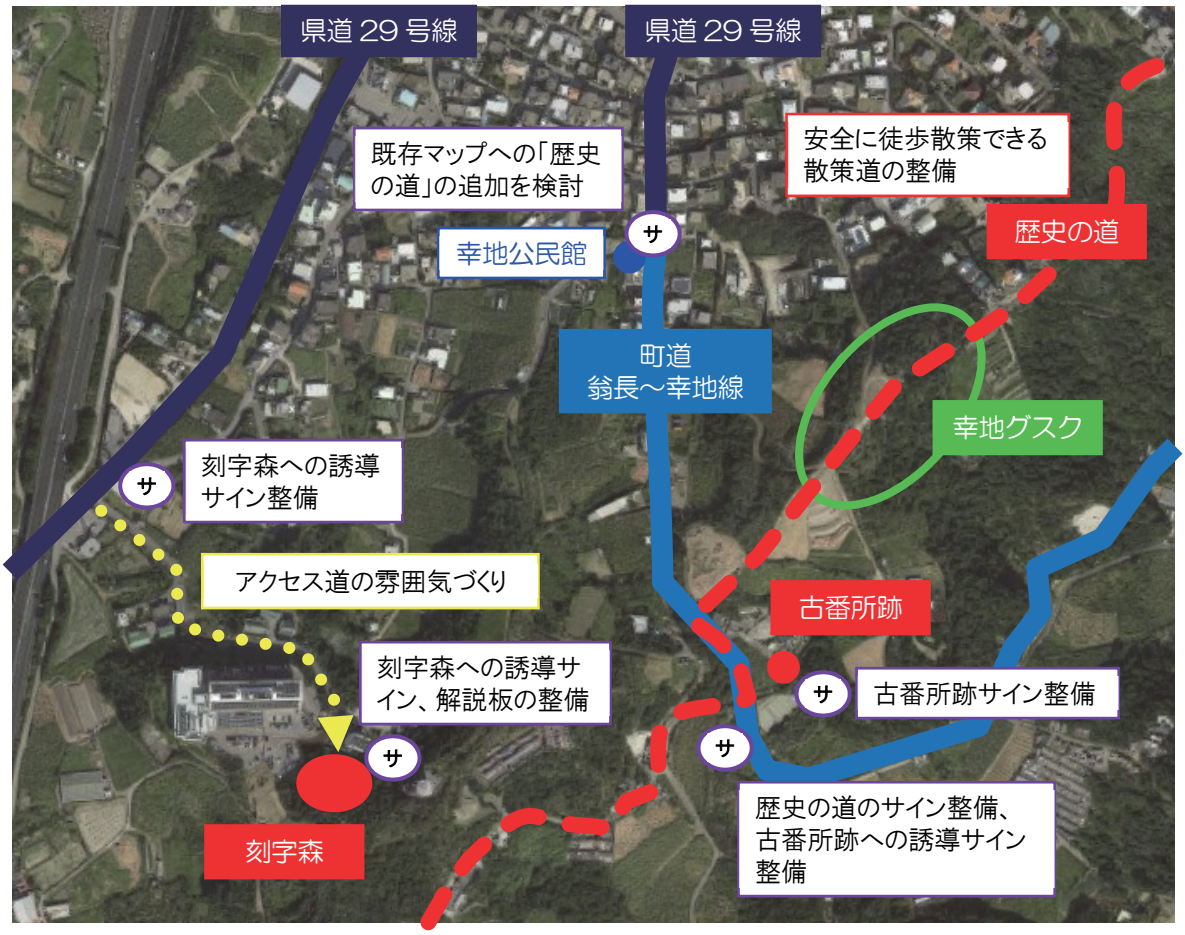
- 幸地グスク内を通る歴史の道は、一部を幸地グスクから徒歩でたどることができる。
- 幸地グスク内には歴史の道についての解説板が設置されているが、町道翁長～幸地線と交差する場所には誘導サインなどは設置されていない。
- 歴史の道沿いに所在するフルバンガー（古番所跡）や刻字森は、サインは整備されていない。

幸地グスク内の歴史の道

【改善ポイント】

- 歴史の道は峰を走っており整備が難しい部分もあるが、現在分かっている道筋のうち安全に通行できる部分については、歩いて散策できるよう木道や階段、石畳調の舗装などの整備を行う。
- フルバンガー（古番所跡）および刻字森は、名称や解説などのサイン整備を検討する。
- 町道翁長～幸地線と歴史の道が交差する場所には、歴史の道であることを示すサイン設置を検討する。また、町道や県道から文化遺産へ至る道の入り口には、誘導サインを整備する。
- 幸地公民館前の文化遺産マップ（字幸地が設置）に歴史の道を追加することを検討する。

図　歴史の道関連整備構想図



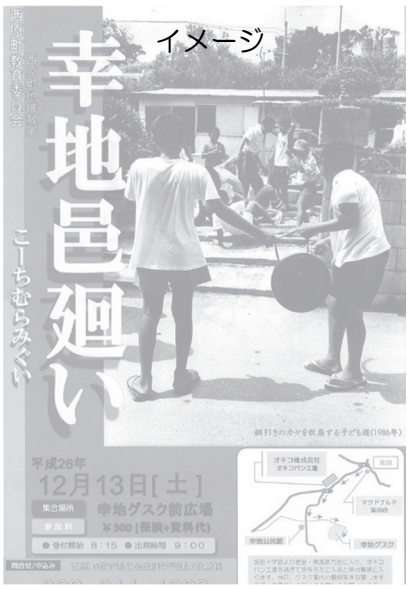
（参考）景観形成重点地区の指定について

西原町景観計画において、幸地グスク周辺は魅力的な眺望景観を提供するとして、「景観形成重点地区」の候補となっている。

景観形成重点地区は集落部分ではなく斜面緑地を対象としており、周辺地から幸地グスクを見上げた際の景観の保全に貢献すると考えられる。景観形成重点地区の指定に向けて、字幸地内でも検討や合意形成を図ることが望まれる。

６．文化遺産を「いかす・広める」ための取組

（１）地域散策ルート・マップの作成



【取組の概要】

- 幸地グスクを核として周辺文化遺産に触れることができる地域散策ルートを設定し、マップを作成する。
- 作成したマップは西原町役場や町立図書館、町内観光地、幸地公民館などに設置し、来訪者の目に触れるよう配慮する。

【期待する効果・留意点など】

- 文化遺産マップの作成は、来訪者への文化遺産の PR だけではなく、地域住民にとっても文化遺産の所在や名称を共有する財産となる。
- 作成したマップデータは、西原町ホームページや観光アプリケーションでの公開を検討する。

（２）幸地の達人（仮）の認定・育成

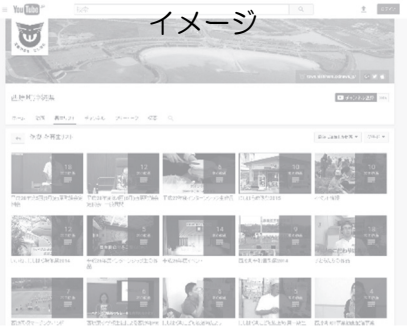
【取組の概要】

- 字幸地の歴史文化分野について知識や技術を有する人を、字主体で「幸地の達人（仮）」として認定する。
- あわせて、幸地グスクを核とした地域散策の案内を行う人材も育成する。

【期待する効果・留意点など】

- 達人と認定されることで、張り合いや目標ができ、字幸地の歴史文化に関わる人材育成が促進されることが期待される。

（３）情報の発信



【取組の概要】

- 字幸地のまつりや芸能の様子などを映像撮影し、YouTube などを通じて情報発信を行う。

【期待する効果・留意点など】

- 字幸地の文化遺産の魅力のひとつである芸能などについて情報発信が行われることで、字幸地の知名度の向上や交流人口の増加が期待される。
- 字幸地単体でこのような情報発信を行うことはハードルが高いと考えられるため、西原町公

式 YouTube アカウント「西原町さわふじチャンネル」などと連携・活用した取組を行う。

（4）イベントの実施

①十五夜遊び芸能祭（例）

【取組の概要】

- 町内には十五夜遊びを行う字が複数あり、各字とも旧暦の八月十五夜に向けて芸能の稽古に励む。このような十五夜遊びを行う他字と連携して、各字の自慢の芸能を披露する芸能祭などを開催する。
- イベントの会場として、幸地グスクの広場などを活用する。

【期待する効果・留意点など】

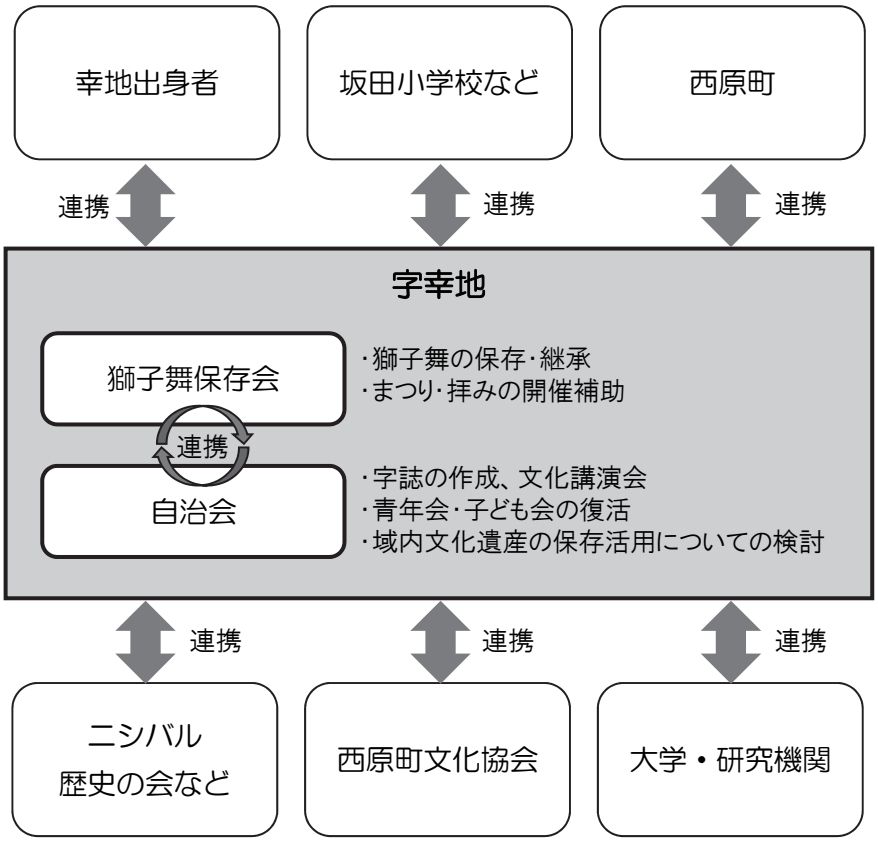
- 他字と交流・情報交換を行うことにより、互いに刺激を受け、より地域の伝統芸能の保存継承が促進されることが期待される。
- イベント化することにより、町外や字外へ字幸地の歴史文化を発信することにつながる。

7．推進のための組織体制の展望

字幸地では十五夜遊びなどで行われる獅子舞が重要な行事となっており、その保存継承を目的とした獅子舞保存会が組織されている。また、字内の組織として、字誌の制作を目的に文化講演会などを行う組織が立ち上がっており、字誌編纂後も、字幸地における文化遺産の保存管理や活用について検討する組織となることが望ましい。

この両組織が連携して、字内の文化遺産の保存・活用を検討する主体となることを想定する。

図　取組体制イメージ



また、本計画で位置づけた内容は、地域が主体となって進めることが望まれる取組、町が主体的に実施する、あるいは町の支援が必要な取組など、様々な主体が想定されるものとなっている。したがって、字幸地および町（行政）、町内外の関係団体・専門家などが連携して進めていくことが望ましい。

表　町全体の保存活用計画（4章）との対応

保存活用計画（町全体）の項目		幸地グスク周辺保存活用区域での対応
文化遺産のハード整備	文化遺産そのものの修復・整備	・幸地グスクおよび歴史の道の整備5（5）
	周辺環境の整備	・幸地グスクおよび歴史の道の整備5（5）
	文化遺産への誘導	・幸地グスクおよび歴史の道の整備5（5）
「知る・体験する」ための取組	学校教育との連携	・女性・子ども向けの歴史文化継承ワークショップの開催4（2）
	地域住民と連携した地域資源の掘り起こし	・字誌の編纂など字主体の取組の継続4（1） ・「和衷協力」運動（仮）の取組4（3）
	文化遺産に関する生涯学習の充実	・女性・子ども向けの歴史文化継承ワークショップの開催4（2）
「守る・高める」ための取組	文化遺産の町指定、字指定の推進	・「字指定文化遺産」の指定5（3）
	文化遺産の記録保存	・年中行事および芸能の記録保存5（2）
	町内文化遺産の調査・研究の推進	・幸地グスクの調査研究の推進5（1）
「いかす・広める」ための取組	文化遺産情報の公開・発信の強化	・地域散策ルート・マップの作成6（1） ・情報の発信6（3）
	観光・産業振興など多分野への活用	・イベントの実施6（4）
	既存計画との連携	―
地域住民および町民主体の体制づくり	地域での文化遺産保存・活用に向けた体制づくり	・子どもたちと文化遺産のつながりの復活5（4） ・幸地の達人（仮）の認定・育成6（2）
	地域の枠を超えた体制づくり	・推進のための組織体制の展望7
庁内各課の連携・役割分担	構想の推進に向けた連携	―
	文化遺産をいかしたまちづくり推進チームの結成	―
大学・研究機関との連携		・幸地グスクの調査研究の推進5（1） ・年中行事および芸能の記録保存5（2） ・推進のための組織体制の展望7
関係市町村との連携		・幸地グスクおよび歴史の道の整備5（5）
文化遺産の保存・活用にかかる人材の育成	守る・いかす視点を持った町民の育成	・推進のための組織体制の展望7
	学校教育を通じた子どもたちの育成	（学校教育との連携と同じ）
	役場職員および教職員の育成	―

※項目後ろの数字は、幸地グスク周辺保存活用区域推進計画の該当する項目番号である。